

紅ガラス製造所跡



【解説】

- ・ 斉彬は嘉永4（1851）年紅ガラス工場を建て、紅ガラスの研究に着手し、数百回の実験を重ね、翌年紅ガラスの政策に成功。日本で初めてと言われている。斉彬が藩主となってからは、藩内外の蘭学者に研究を進めさせ、日本でも最高水準のガラス製品を作り出すようになった。

紅ガラス工場は、安政2（1855）年ごろに磯の集成館に移され、薩摩切子や板ガラスなどが産み出された。「薩摩の紅ビートロ」と呼ばれ珍重され、斉彬が自慢していたという黒田斉溥の書状も残されている。

- ・ 斉彬の父、27代斉興は、弘化3（1846）年この地に製薬局を建てた。薬を作る研究を進めていた薩摩藩では、薬品を入れる容器が必要になり、江戸のガラス工四本亀次郎を招きガラス製造を始めた。

【次のスポット】

[田上水車場跡\(鹿児島市田上 1-12-1\)](#)

- ・ 移動手段

[市電\(郡元～鹿児島中央駅\)](#)

[バス\(鹿児島中央駅～田上\)](#)

【近くのトイレ・休憩施設】